

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔3〕議員名〔大西 尚子〕

1 年 月 日	令和6年7月1日から3日（日数2泊3日）
2 場 所	滋賀県大津市唐崎 全国市町村国際文化研究所
3 観察・研修事項	社会保障、社会福祉
4. 面接者	兵庫県立大学 香取照幸 日本福祉大学 渡辺顕一郎 聖路加国際大学 坂元晴香 島根大学 宮本恭子 大阪公立大学 垣田裕介 ニッセイ基礎研究所 三原岳

5 観察研修、研修会の成果

令和6年7月1日から3日まで研修に行ってきました。社会保障・社会福祉について3日間16時間の講義を受けました。将来の社会保障の姿を考えるのテーマについて2040年の社会のイメージへ平均的な高齢者像では語れない多様性と格差の時代になる。85歳を超えると5割は要介護、4割は認知症になる。訪問診療が増えサービスの中心はアウトリーチ型になる。医療と介護の一体提供が必要になる。

これから子育て支援のテーマについて予防型支援としてのこども家庭センター、子育て支援、地域に合わせた支援、補償は人件費に使用して充実させる、人件費の見直しをしっかりすることが大切になる。

データから読み解く日本の少子化の要因のテーマについて未婚者の増加、結婚格差、大学がないと女性の働き場所、市役所、介護、医療、教育、地域で人を呼び込む、全体の地域対策が必要になる。子供の数にも現れる格差、アジア全体では日本は持ちこたえられている。子育て支援と少子化対策は同じではない。少子化対策としてできることは子供のいる世帯への経済的支援、量と質のトレードオフが起きる。同一都道府県でも出生率は一様ではない。

福祉・介護、サービスの人材確保と育成について介護人材をめぐる動き、2040年問題、急激に現役世代が減少するため介護分野の人手不足になる。岐阜県では2040年65歳以上単独世帯の割合は34.3%になると予想されています。外国人介護人材、ロボット、ICT活用、介護の生産性、質の向上、人材確保対策が必要になります。今後は介護をしながら働く人も増加してきます。（ビジネスケアラー）企業規模別に仕事と介護の両立支援が必要になると今後予想される。

生活困窮者の実態と支援策、社会保障、社会福祉のあり方を考えるについて

生活困窮者の多様な側面を捉える観点が重要。困っているのはお金だけとは限らないこともあります。日常生活で字の読み書きができない、お金の管理ができる人が全てではない。飲食店のメニューを例にして福祉を考えると福祉の給付、食事の効用、福祉の機能、いかに届けるかという観点を持って考える必要がある。生活困窮者に対する伴走型支援の提唱、社会的孤立を視野に入れて福祉を考えることが必要になる。

高齢者福祉と地域共生社会における市町村議会の役割について介護保険を巡り財源不足、人材不足の二つの不足があります。厚生労働省の委託検査では介護ロボットやICT機器の導入が進んでないことがわかった。地域支援事業を進めていく中でいきなり新しい仕組みを作るのではなく、ケアラー支援、介護と仕事の両立支援、重層的支援整備事業、目線を少し変える、事業の関心の高まりを活用し、既存の取り組みを少し変える工夫があると良いのでは。今回の研修を受けてたくさんの問題が山積みだと思います。色々な条例を考える事も必要で、ただ、形だけ出来上がるのも市民にとって制度がいきわたらないことにもなるのかとも思いました。今後益々進んでいくので議論していきたいと思います。研修を受けてとても勉強になりました。今後に活かしていきたいと思います。

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔3〕議員名〔大西 尚子〕

1 年 月 日	令和6年8月8日から9日（日数1泊2日）
2 場 所	滋賀県大津市唐崎 JIAM 全国市町村国際文化研究所
3 観察・研修事項	自治体予算を考える
4 面 接 者	武庫川女子大学 金崎 健太郎

5 観察研修、研修会の成果

令和6年8月8日から9日に滋賀県大津市唐崎 JIAM 全国市町村国際文化所にて（自治体予算を考える）をテーマに研修にいってきました。二日間で合わせて8時間の講義をうけてきました。自治体予算の原則として予算の種類、予算のルール、会計年度の独立、総計予算主義、予算単一主義、予算公開の原則、予算編成から成立、執行、予算の提案と議決、執行部内の予算編成の流れ、予算の再議、専決処分の説明を受けました。民間の考え方と違うということや必ず議会の議決が必要になることが分かりました。議案書は昭和33年より変わっていないということです。長きにわたり先人たちが作り上げたシステムに感銘を受けました。予算に関する資料説明、内容、歳入歳出予算、議案の例、予算案のチェックポイントでは将来を見据えた見通しが大切になります。歳入のチェックポイント、地方交付税の仕組み、普通交付税の算定項目と測定単位、臨時財政対策債については将来について今、考えるべきこととして必要な投資、整備する必要が予想される事、将来新しい政策課題に対応する余力があるよう十分な議論が必要だと思いました。歳出についてその他の歳入、歳出に関する基本原則では森に例えると木だけを見て森を見ずにならないように全体をみると、毎年の積み重ねで将来が決まる大切な事にかかわっていると身が引き締まる気持ちになりました。歳出の目的別、性質別の中のその他の経費、投資的経費、義務的経費では削れない部分でウエートが大きくなると余裕度がなくなると思います。繰り出し金の内訳推移では国民保険、後期高齢者保険の料金が高くなってきています。決算関係書類のなかの施策の成果を説明する書類は審査の方法は自治体それぞれになっています。決算書では予算の余った部分について仕事をしてなのか、仕事が出来なくて余ったのか議論するべきとの説明がありました。類似団体比較カードがあり、人口と同じくらいでよく似た自治体を相対的に探っていくことも必要と説明ありました。単年度収支、実質単年度収支では単年度で黒字でも貯金の取り崩しがあるので危険水域に入っていく恐れがある。財政力指数では平均0.5位、実際は0.2から0.3位で下呂市は0.33です。気を付けて見ていく必要があります。経済収支比率では自治体の中身を考える必要があります。事業費に回せなくなっています。公債費負担比率は全国的に減らす努力をしています。将来負担比率では将来降りかかることを予想して、早期健全化基準を超えない等に規模的に必要かどうか議論が必要です。北海道夕張市の話も出ました。令和4年度決算まで早

期健全化団体は該当なしで財政団体には夕張市は令和11年度までで該当から外れます。地方公共団体と民間では考え方がちがうということが分かりました。研修の中でグループ質疑もあり、熊本県氷川町、京都府亀岡市静岡市、愛知県岩倉市、茨城県城里町、神奈川県湯河原町の議員と色々な情報交換をすることが出来ました。内容の濃い研修でした。継続してコツコツと勉強していきたいと思います。今回、研修に行けて良かったです。今後に生かしていきます。

視察研修・研修会等報告書

議席番号〔3〕議員名〔大西 尚子〕

1 年 月 日	令和6年8月5日（月）
2 場 所	高山市 飛騨地域地場産業振興センター
3 観察・研修事項	新人議員特別セミナーin高山 議員の資質向上と議会運営の基本
4. 面接者	自治体議会研究所 高沖 秀宣
5 観察研修、研修会の成果	
令和6年8月8日5日（月）議員の資質向上と議会運営の基本（改革の底辺から底辺の改革へ）研修を受けました。議会の役割、議会とは憲法第93条及び地方自治法第89条などに基づき地方公共団体に設置される議事機関です。札幌市議会 HP から市政と市議会の役割の説明を受けました。現状としてあまり政策形成機能は発揮されていないのでは。議会運営の基本として二元代表制について、二元代表制における議会の役割をどうとらえるか、機能しているか。通年制議会について、これには議会力を上げるために理想ではあるが、事務局や議員の負担を考えるとかなりの議論が必要である。藤枝市は通年議会を導入されてどうなったか説明ありました。メリットの説明がありましたが下呂市議会としては課題があると思われる。政策提案の原点について予算修正、政策提言書等の作成、政策条例の提案について奥州市議会の事例の説明がありました。非常に大事な作業、権限のあることと思いました。加須市議会基本条例を例に議会力、議員力の強化が必要になる。政策立案、政策提言を議員間で共有できるかという事も課題になる。早稲田マニフェスト研究所の議会改革度調査では、議会が果たすべき役割として情報共有、住民参画、議会機能強化、3つの柱がある。2023のランキングデータ岐阜県では高山市議会39位可児市議会44位これ以外の議会は300位以下でした。政務活動費の活用について金額を適切に使用して、その成果を市民に届くようにするべきと説明ありました。日々、議員としてアンテナを張り議員活動を行うべきと思いました。ポストコロナ時代の議会運営では議事機関としての機能は維持すべき、補正予算議案の専決は本当に必要な場合のみ、多様性のある議会に、ゼロワン議会からの脱却を審議、熟議するべき。オンラインによる委員会の開催も必要に。災害時にも対応していく。災害時に議会が一つにまとめて市長に提言することもできる。他の議会ではハラスメント防止条例を制定。なければ作るべき。今回の研修に参加して議員としてたくさん学びがありました。これからも学び続けて議員力、議会力が上がるよう努めたいと思います。	